**２０２３年７月28日(金)　虚子記念館会場**

 仲　寒蟬

 鬼百合の咲いて戸口に影を生む 久保千恵子

 黒塀の続く城下や道をしへ 大根原志津子

 向日葵の一ト本愉快さうでもなく 本井　英

 炎天や平らな道が小諸にも 本井　英

〇 奥まりてスナック夕子蔦茂る 原　水和実

 土肥あき子

 吸ひ込まれさうな青空田水沸く 新村美那子

〇 向日葵の一ト本愉快さうでもなく 本井　英

 子の孫の曾孫の峰や入道雲 仲　寒蟬

 園児らの別れにぎやか青蛙 久保千恵子

 威勢良く上がるシャッター凌霄花 大根原志津子

 塩川　正

 中干しの夏只中の青田かな 本井　英

 空つぽの心抱けば道をしへ 新村美那子

 白雲を浮かべて虚子の甕涼し 土肥あき子

 吸ひ込まれさうな青空田水沸く 新村美那子

〇 紫苑まだ少年の丈虚子旧居 海野良三

 大根原志津子

〇 道をしへ死しても色を失はず 仲　寒蟬

 フェンネルが育つて咲いてピザの店 青木百舌鳥

 炎天を歩みて思考回路失し 沼田布美

 地の熱の噴きこぼれたる凌霄花 仲　寒蟬

 炎昼の音失せしとき雲育つ 青木百舌鳥

 沼田布美

 フェンネルが育つて咲いてピザの店 青木百舌鳥

 白雲を浮かべて虚子の甕涼し 土肥あき子

 土は灼け石さらに灼け道をしへ 本井　英

〇 地の熱の噴きこぼれたる凌霄花 仲　寒蟬

 炎昼の音失せしとき雲育つ 青木百舌鳥

 新村美那子

 道をしへいつもと違ふ家路かな 沼田布美

〇 もてなしの声ほがらかにトマト食ぶ 平松貴子

 白雲を浮かべて虚子の甕涼し 土肥あき子

 土は灼け石さらに灼け道をしへ 本井　英

 地の熱の噴きこぼれたる凌霄花 仲　寒蟬

 本井　英

 炎帝の雲の玉座の湧きあがる 土肥あき子

 奥まりてスナック夕子蔦茂る 原　水和実

〇 地の熱の噴きこぼれたる凌霄花 仲　寒蟬

 炎昼の音失せしとき雲育つ 青木百舌鳥

 いつか滝になりたしと川きらめきぬ 土肥あき子

 青木百舌鳥

 もてなしの盥にきゆうりトマト冷ゆ 近藤作子

〇 向日葵や園舎に向きて咲き揃ひ 平松貴子

 炎天や平らな道が小諸にも 本井　英

 園児らの別れにぎやか青蛙 久保千恵子

 土は灼け石さらに灼け道をしへ 本井　英

 久保千恵子

 笑ひ皺深く小諸の人日焼 青木百舌鳥

 炎帝の雲の玉座の湧きあがる 土肥あき子

 縁側に涼風通る虚子旧居 新村美那子

 紫苑まだ少年の丈虚子旧居 海野良三

〇 炎昼の音失せしとき雲育つ 青木百舌鳥

 平松貴子

 青田風迎への母におんぶされ 近藤作子

 道をしへいつもと違ふ家路かな 沼田布美

 道をしへどこにも居らず道失ふ 久保千恵子

〇 紫苑まだ少年の丈虚子旧居 海野良三

 炎昼の音失せしとき雲育つ 青木百舌鳥

 原　水和実

 炎天や平らな道が小諸にも 本井　英

〇 炎昼の音失せしとき雲育つ 青木百舌鳥

 いるわいるわ俳句たんぼに青蛙 新村美那子

 向日葵の一ト本愉快さうでもなく 本井　英

 土は灼け石さらに灼け道をしへ 本井　英

 近藤作子

 雷声は遠し小諸の水荒し 青木百舌鳥

〇 虚子の道ひかりを恋うて夏の蝶 久保千恵子

 浅間山ゆらぎて見ゆる炎暑かな 平松貴子

 紫苑まだ少年の丈虚子旧居 海野良三

 炎昼の音失せしとき雲育つ 青木百舌鳥

 海野良三

 青田風迎への母におんぶされ 近藤作子

 道をしへ死しても色を失なはず 仲　寒蟬

 炎天を歩みて思考回路失し 沼田布美

〇 地の熱の噴きこぼれたる凌霄花 仲　寒蟬

 威勢良く上がるシャッター凌霄花 大根原志津子